

令和4年1月19日

学長メッセージ  
東京海洋大学 学生の皆さんへ

国立大学法人東京海洋大学  
学長 井関俊夫

厚生労働省が国内で最初の新型コロナウイルス感染を報告したのは令和2年1月16日のことでした。それから2年、この未知のウイルスは変異を繰り返しながら拡大を続け、日本国内の感染者は累計で190万人を超えました（令和4年1月17日現在）。これは実に日本国民の65人に1人が感染している計算となります。

この間、本学においても、感染拡大防止のため、オンライン授業の実施や、入構の制限、換気・消毒の徹底など様々な対策を実施してまいりました。全ては、学生の皆さんの安心安全な大学生活を取り戻すための対応でしたが、その反面、皆さんにとっては、制約が多く、思い描いていたような大学生活を送ることができなかった部分もあったかと思います。まずはこれまでの大学の対応への、皆さんのご理解とご協力に深く感謝いたします。

皆さんのご協力のおかげで、本学では昨年10月より対面授業を再開することができましたが、昨年末以降感染者数が急増し、予断を許さない状況になってきています。

コロナウイルスの変異株であるオミクロン株は症状が軽い、重症化しにくい、などの報道も見られますが、まだ正確なことは分かっていません。本学においても、気を緩めると学内でクラスターが発生する可能性も0ではありません。決して報道に振り回されることなく、日々の感染防止等（マスクの着用、手洗いの励行、咳エチケットの徹底、3密の回避やソーシャルディスタンスの確保など）に引き続き努めてください。また、毎日の体調管理を行うとともに特に大人数の飲食等は自粛するようお願いいたします。

自分の信じたい情報だけを信じ、都合の悪いことを無視することを「確証バイアス」、周囲が楽観的だから自分も楽観的で良いと思うことを「多数派同調バイアス」と呼ぶそうです。皆さんは十分に長い間我慢し、努力を重ねてきました。それだからこそ、今一度、冷静な行動を継続する勇気を持って下さい。